

「福祉の学習」推進パンフレット
教職員の皆さま

ふ だんの く らしの し あわせのために
みんなが しあわせにくらしていくための教育

しょう 障がい者スポーツ

～みんなが楽しめるスポーツを知ろう～



社会福祉法人北海道社会福祉協議会
北海道ボランティア・市民活動センター



障がい者スポーツの歴史

西暦 (和暦)	できごと	内容
1964年 (昭和39年)	東京オリンピック直後に、国際身体障がい者スポーツ大会開催 (第2回パラリンピック)	この大会における選手の活躍は、医療関係者や他の障がい者などへ大きな影響を与え、障がい者スポーツの普及が加速した。
1965年 (昭和40年)	財団法人日本身体障害者スポーツ協会設立	身体障がい者スポーツの普及・振興を図る組織。同年から「全国身体障害者スポーツ大会」開催。
1992年 (平成4年)	「全国知的障害者スポーツ大会」開催	愛称「ゆうあいピック」。
1998年 (平成10年)	ながの長野パラリンピック開催	これまで新聞の社会面でしか取り上げられなかった競技結果が、スポーツ面で取り上げられた。
2001年 (平成13年)	全国障害者スポーツ大会の開催 第1回全国精神障害者バレーボール大会	ゆうあいピックと全国身体障害者スポーツ大会が統合。 翌年、全国精神障害者スポーツ大会と名称変更し、全国障害者スポーツ大会へ準公式参加。
2011年 (平成23年)	スポーツ基本法施行	障がい者スポーツが、国の施策として本格的に推進され始めた。
2016年 (平成28年)	障害者差別解消法の施行	「合理的配慮」の提供が義務化 (一部努力義務)。
2020年 (令和2年)	東京パラリンピック開催	夏の大会で同一都市での複数開催が初。

現在、北海道では「北海道障がい者スポーツ大会」、札幌市では「すずらんピック (札幌市障がい者スポーツ大会)」が年1回開催されるほか、道内各地で様々な競技大会が開催されており、出場する選手の中には「全国障害者スポーツ大会」に派遣され、全国的に活躍されている方もいます。

※「障がい」の表記について

北海道では、前後の文脈から人や人の状況を表す場合は、固有名称等を除き「障がい」と表記しています。

障がい者スポーツの意義

障がい者スポーツの原点は、医療的な視点の「運動療法」や「リハビリテーション」です。しかし、障がい者スポーツの意義はそれに留まらず、スポーツを行うことによる体力および能力の向上や心身のリハビリテーション効果、社会参加の機会拡大、スポーツがもともと持っている魅力である自己実現の後押しをすることなどが挙げられ、他の障がい者への広がりも大いに期待されています。



大人と子どもみんなが協力して行うバルーン遊び

例えば、実際にスポーツをされている方によると、障がい者同士が集まって意見交換したり活動することにより、体の可動範囲や周囲の手を借りずにできる活動の幅が広がったり、障がいに対する考え方が変わるほか、自身の心の拠り所や生きがいにも繋がっているようです。

また、障がい者スポーツを見たり、子どもから高齢者まで全ての人と一緒に楽しむことや、そのための環境整備などを通じて、障がいや障がい者への理解が深まるとともに、スポーツ全体の振興や共生社会 (年齢や性別、障がいによらず誰もが共に生きられる社会) の構築など社会全体に与える効果もあります。

ほかくにひかくすると、日本では障がい者スポーツに限らず、全体にスポーツの普及は遅れをとっています。

そうしたなかで、障がい者スポーツへの理解や競技実施頻度は、長野パラリンピックを境に劇的に変化してきました。

また、2013年（平成25年）9月に2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会が東京で開催されることが決定して以降、さらなる関心の高まりがみられます。

北海道では、車いすバスケットボール、ボッチャなど、競技団体や個人により様々な競技が行われています。



たいいくかんせっちこどもようくるまきょうぎようそうさたいけん
体育館に設置された子ども用車いす（競技用）の操作体験をする子どもたち

<道内で競技団体や個人の活動がある主な障がい者スポーツ>

ほしよきぐしょうめやす 補助器具などの使用（目安）	きょうぎしゆもくさんこう 競技種目（参考「マイパラ!」より ※あくまでも一例です。）
なし (障がいによっては使うものもある)	すいえい 水泳、サッカー（ブラインドサッカー、アンブティサッカー、デフサッカー）、ブラインドマラソン、 ボッチャ、卓球、ダンス、射撃、テコンドー、パワーリフティング、アーチェリー
くるま 車いす	くるま 車いすバスケットボール、くるま 車いすテニス、くるま 車いすラグビー、くるま 車いすフェンシング、くるま 車いすカーリング
アイシェード（目隠し）	ゴールボール
せんよう 専用スキー・スケート	ノルディックスキー、アルペンスキー、アイスホッケー
せんよう 専用カヌー	カヌー

近年では、各地の体育館事業や学校の授業などでも、障がい者スポーツの体験を行う機会が増えており、より関心も高まってきていますが「障がい者スポーツ」の普及や、「障がい者」への正しい理解はまだまだ乏しいといえます。

例えば、「障がい者スポーツ」といえば、車いすや義足を使用した「車いすバスケットボール」や「陸上競技」が想像されるでしょう。それは、そのような競技が見る人にもわかりやすく、広告や報道で取り上げられる機会が多いためです。

しかし、上の表にもあるように、「障がい者スポーツ」は車いすや義足などを使用しない競技も多数あります。また、脳性まひや脳出血などによる半身まひ、見た目にはわかりづらい聴覚障がいや視覚障がい、知的障がい、精神障がい、さらには、障がいと判断されにくい低身長や筋力の弱い方などが行うことのできる競技も含まれます。

さらに、なかには障がいの無い方も一緒に大会へ出場できるようになった競技もあり、障がい者だけではなく誰もが楽しめるスポーツになってきています。



きょうぎしつたいげんようす
スポーツ教室での体験の様子

このように「障がい者スポーツ」は、障がいのあるなしや程度によらず楽しめる競技が多くあり、ルールや使うものの工夫によっては、体育や遊びの中に取り入れやすいものもあります。

最近ではメディアでパラリンピックに関する情報をよく目にするようになりましたが、身近にどこで障がい者スポーツをできるか、障がい種別によってどのスポーツをできるかなどの情報が障がい児や保護者に届いていません。子どもたちの可能性や活動の幅を広げるために、本パンフレットを活用して、それらの方々にぜひ情報提供をしてください。

「障がい者スポーツ」に対する理解は徐々に進んでいますが、各競技団体を応援するサポーターや大会の運営のお手伝いをするボランティアが少なく、また、競技の認知度によってもその活動を希望する人数に偏りがあり、大会の開催が厳しい状況にある競技も多数あります。

また、最近では障がいがあっても働ける会社が増えるなど、障がいに対する理解も進みつつあり、スポーツ以外にも生きがいを見つけられる選択肢が増えてきた一方で、スポーツに関わる方や選手のなり手が減少傾向にあります。

スポーツの良さは、障がいや体力のあるなしに関わらず、子どもから大人まで幅広く行うことができ、自分自身のできる事が広がり自信がついたり、人との出会いやつながりをもつことができ、みんなで楽しめる場所があります。また、体を動かすことは頭を使うことでもあり、心身の健康にも繋がります。

2020年（令和2年）は、東京パラリンピック競技大会が開催されますが、これを契機に、障がいや障がい者スポーツの意義について考えてみましょう。

新たな視点「アダプテッド・スポーツ」

アダプテッド・スポーツとは、「個人の身体能力、年齢、障害の有無などにとらわれず、ルールや用具を工夫して、その人に適合させたスポーツ」のことであり、誰もが楽しむことのできるスポーツの総称です。

このようなスポーツは、障がい者が主役であっても、必ずしも障がい者に限定したスポーツではないこと、国際的に障がい者といった包括的な表現を用いない傾向にあることなどから、アダプテッド・スポーツという言葉が1994年（平成6年）頃から提唱されています。

クラスに障がいのある子がいても、アダプテッドスポーツの視点で様々なスポーツを一緒にでき、スポーツを通して共生を学ぶことができます。

「障がい者スポーツ」についてのお問い合わせ先

- 北海道障がい者スポーツ協会 電話番号 011-261-6970
- 札幌市障がい者スポーツ協会 電話番号 011-612-1184
- 「マイパラ！」 日本財団パラリンピックサポートセンター URL www.parasapo.tokyo/mypara/

<参考資料>

- 「パラリンピックの楽しみ方」 藤田紀昭、小学館、平成28年8月
- 特集スポーツの科学「アダプテッド・スポーツとパラリンピック」 矢部京之助 https://www.jstage.jst.go.jp/article/tits1996/11/10/11_10_54/_pdf/-char/ja
- 「障がい者スポーツの歴史と現状」公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 https://www.jsad.or.jp/about/pdf/jsad_ss_2019_web.pdf
- スポーツ庁「障害者スポーツ」 http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop06/1371877.htm
- 「日本の障がい者スポーツと法をめぐる現状と課題」 望月浩一郎 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jpem/8/1/8_1_1/_pdf
- 障害保健福祉研究情報システム 特集/もう一つのオリンピック 日本の3月、パラリンピック。
「アダプテッド・スポーツの提言」 矢部京之助 http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/prdl/jsrd/norma/n197/n197_017.html

<協力・写真提供>

- 北海道障がい者スポーツ協会
- 北海道身体障害者福祉協会
- 永瀬 充 氏（北海道新聞バラスポーツアドバイザー/バンクーバーパラリンピック・アイスホッケー銀メダリスト）
- 岩崎 圭介 氏（車いすバスケットボールプレイヤー）
- 三浦 淳 氏（札幌市障がい者スポーツ指導者協議会会長）

令和元年10月発行

社会福祉法人北海道社会福祉協議会地域福祉部地域福祉課
北海道ボランティア・市民活動センター
TEL：011-271-0683 FAX：011-271-3956

本パンフレットは以下のURLか右のQRコードからPDFでダウンロードすることができます。
北海道ボランティア・市民活動センターブログ <http://blog.canpan.info/d-vola/>

QRコード
はこちら



スマートフォンの場合は、表示を「デスクトップ版」に変更されるとご覧いただけます。

